

# Oxford

## 学習英英辞典活用の手引き

英語教育における効果的な辞書指導のヒント

山田 茂

早稲田大学

# 学習英英辞典活用の手引き

英語教育における効果的な辞書指導のヒント

山田 茂 早稲田大学

## 目次

### はじめに

1. 辞書活用の目的と意義	1
2. 辞書使用と辞書指導	1
3. 辞書の種類と特徴	1
3.1 辞書の分類	1
3.2 辞書検索の二つの方向性	2
3.3 受信のための英語辞書	2
3.4 発信のための英語辞書	4
4. 学習英英辞典の選定のポイント	4
5. 学習英英辞典の活用のポイント	5
5.1 辞書検索プロセスの7段階	5
5.2 受信のための辞書検索	6
定義の基本	7
定義によく使われる語句、用語	7
5.3 発信のための辞書検索	8
6. アクティビティーのアイデア	9
6.1 導入	9
6.2 受信のためのアクティビティー	10
6.3 発信のためのアクティビティー	11
6.4 総合的なアクティビティー	11
参考文献	13

### はじめに

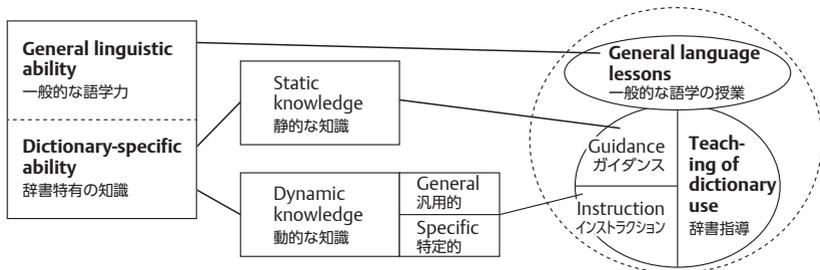
世界には種々の辞書が存在するが、最もレベルが高いジャンルは何か。それは、外国人学習者のための英英辞典、学習英英辞典だ。この分野の初の本格的な辞書は、1942年に日本で出版された *Idiomatic and Syntactic English Dictionary* (Hornby 他編、開拓社；後の *Oxford Advanced Learner's Dictionary* [OALD]) だ。学習英英辞典は、世界語としての英語の重要性の高まり、言語学・辞書学の発展、テクノロジーの進歩を背景に、出版社間の激しい競争の下発達してきた。編集法、情報の質、その提示法において辞書界をリードしていると言ってもよい。英語を学習する外国人にとって有用なツールであり、情報の宝庫だ。今日、複数の学習英英辞典がインターネット上で無料で使えるようになっている。また、上級者向け携帯型電子辞書には複数が搭載され、アプリやネットに接続しスマートフォンで使用することも可能だ。電子的に縦横無尽の検索も可能になり、複数の紙の辞書を机上に並べ首っ引きで引いていた時代とは隔世の感がある。辞書のお好みは個人的なものだが、学習英英辞典を使うことにより確実に英語力を伸ばすことができると思う。このグローバル化の時代、使わない手はない。少なくとも選択肢の一つとして持って(知って)いるとよい。本手引きでは、受信型の学習英英辞典を中心に、日本人の英語での受信(読む、聴く)・発信(書く、話す)活動をサポートする辞書一種類、使用、そして指導一に関し考え、具体的な活動例を提案する。個人、授業でのよりよい辞書の活用のための何らかのお役に立てば幸いである。

## 1. 辞書活用の目的と意義

辞書は、一義的には求めている情報を迅速に探すための道具だろう。しかし、外国語の辞書を使う場合、この「検索」という作業に、「学習」という要素が加わる。これは付加価値でも、効果でも、目的であっても構わない。学習英英辞典は、意味、文法、語法、発音、文化も親切に教えてくれ、発信のためのモデルも示してくれる。「検索」のためだけに使うのはもったいない。手取り早く翻訳（候補）を示してくれるサイトも存在する現在、辞書を引くことは面倒なことかもしれない。しかし、辞書を引けると自習をすることができる。辞書を引くことは大きな学びのチャンスで、それにより知識が増え、語感が磨かれ、表現力が強化される。予期せぬ発見があることは喜びでもある。複数の辞書を使えば、さらに世界が広がり、理解が深まる。この辞書を引くという行為を楽しみ、最大の効果を引き出すためには、辞書の種類と引き方について知っていなければならない。

## 2. 辞書使用と辞書指導

辞書を使えるということはどういうことだろうか。普段何気なく行っているが、実は辞書を引くという行為は、複雑で高度に知的なプロセスだ。辞書を使えるためには何が必要か。日本人が英語辞書を使うことを例に、下図を参考に、辞書使用の前提となる事項を指導と絡めて考えてみよう。外国語である英語の辞書を使えるためには「語学力（英語力）」と「辞書特有の知識」が必要である。「語学力」は「語学の授業」で養われるべきものだ。「辞書特有の知識」は「辞書指導」で教えられるべきだ。「辞書特有の知識」には「静的な知識」と「動的な知識」の二種類がある。両者は、辞書を開く前と、開いた後にそれぞれ関係する。「静的な知識」とは、どのような種類の辞書が存在し、どのような目的で使われるかを知っていることだ。「動的な知識」とは、実際に辞書を引くための知識で、あるジャンルの辞書に共通する「汎用的」な知識と、ある辞書にのみ適用される「特定の」な知識とがある。「静的な知識」を扱う辞書指導を「ガイダンス」、「動的な知識」を扱う指導を「インストラクション」と呼ぶ。



辞書使用の前提となる二つの知識とその指導 (Yamada 2001:125)

それでは、辞書に関する「静的な知識」（セクション3.、4.）と「動的な知識」（セクション5.）を詳しく見てみよう。

## 3. 辞書の種類と特徴

### 3.1 辞書の分類

現在、こと英語に関しては、実に多種多様な辞書が存在する。その分類は一筋縄ではいかないが、どのような種類の辞書が存在し、分類できるかを知っておくことは、辞書を適切に選択、使用するために有益である。以下のような観点から分類が可能である（分類は網羅的ではなく、カテゴリというより傾向の場合もある）：規模・範囲（一般、専門）；言語、百科的；通時的、共時的）、フォーマット（アルファベット順、概念別）、原則（歴史的、頻度）、方針（記述的、規範的）、情報カテゴリ、言語数、媒体（紙、電子）、用途（受信用、発信用）、対象者（母語話者、学習者）、検索法（アルファベット順の見出し語、索引）、作成法（コーパス使用、翻訳）、出版目的（学術的、商業的）（小池他編 2003:652）。

### 3.2 辞書検索の二つの方向性

以降、受信用、発信用に分け、日本人学習者に有用な英語辞書を概観するが、まずは辞書を使う二つの目的に関し簡単に考えてみたい。我々の多くは、英字新聞を読んでいてわからない単語が出てきたら英和辞典を、英語でメールを書いている、ある意味を表す適切な語句が思いつかない場合は、和英辞典を引くだろう。辞書検索には、下の図が示すような二つの方向性がある：



英字新聞を読んでいて、わからない単語 (FORM) ができて、その意味 (MEANING) を調べるために英和辞典を引く検索 (FORM → MEANING) を「受信型」の検索という。反対に、英語でメールを書いている、日本語で浮かぶ意味を英語でどう表現するかを和英辞典で調べる検索 (MEANING → FORM) を「発信型」の検索という。日本人が受信、発信のために使える英語辞書に以下のようなものがある：

受信用: 英和辞典、英英辞典 (外国人学習者向け、ネイティブ・スピーカー向け)  
発信用: 和英辞典、シソーラス、類義語辞典、コロケーション辞典

英和辞典や英英辞典は見出し語がアルファベット順に配列されており基本的には受信用の辞書だが、発信のために使えないという訳ではない。これらの辞書を発信目的で使えるためには、類義語などの特別な知識が必要であるが、英和辞典や学習英英辞典には、文法、語法、コロケーション、類義語の使い分け、誤用情報など、発信にも役立つ情報も盛り込まれている。

### 3.3 受信のための英語辞書

ここでは、学習英英辞典をネイティブ・スピーカー向け英英辞典、英和辞典と比較することにより、日本人が受信目的で使える辞書の特徴を探る。

#### 学習英英辞典とネイティブ・スピーカー向け英英辞典

ネイティブ・スピーカー向け英英辞典は、イギリス人、アメリカ人など英語を母語とする人々を対象としており、日本人のための「国語辞典」に相当する。それに対し学習英英辞典は、英語を学習する外国人向けの辞書だ。ネイティブ・スピーカー向けの *Oxford Dictionary of English* と外国人学習者向けの *OALD* の **dog** の最初の項目を比較してみよう：

a domesticated carnivorous mammal that typically has a long snout, an acute sense of smell, non-retractile claws, and a barking, howling, or whining voice.

(*Oxford Dictionary of English* 第3版, 2010. Oxford University Press)

☞ [C] an animal with four legs and a tail, often kept as a pet or trained for work, for example hunting or guarding buildings. There are many types of dog, some of which are wild  
*I took the dog for a walk.* ◇ *I could hear a dog barking.* ◇ *dog food* ◇ *guard dogs* ◇ *a dog and her puppies* ☞ see also GUIDE DOG, GUN DOG, HEARING DOG, LAPDOG, PRAIRIE DOG, SHEEPDOG, SNIFFER DOG, TRACKER DOG

(*Oxford Advanced Learner's Dictionary* 第8版, 2010. Oxford University Press)

ネイティブ・スピーカー向けの前者と違い、外国人学習者向けの後者は定義に難解な語が含まれていないばかりか、用例まで与えてくれている。難易度、とっつきやすさにかかなりの差があることが一目瞭然である。学習英英辞典は以下のような特徴を持っている：

- ・ 見出し語、語義が厳選され、主にことばの情報を扱う
- ・ 基本語の記述が充実している
- ・ IPAによる発音表記

- ・名詞の加算・不加算や文型の表示
- ・定義語彙による、わかりやすい定義
- ・用例、挿絵が豊富

(小池他編2003:665)

英英辞典を難しい、面倒だと感じる理由の一つに、意味を調べるために辞書を引いたのに説明の中にわからない語句が出てきてまた引かなければならないのではないかと不安があると思う。しかし、学習英英辞典の定義は2000～3500語の基本語(定義語彙\*)でなされている。そして、これら以外の語が致し方なく使われる場合にも直後に括弧付きの注釈が与えられるなど、上記のような堂々巡りが起こらないように工夫が施されている。大学生に実際に学習英英辞典を使わせてみると、敷居が高いと敬遠していたのに意外に簡単に使えることがわかり、拍子抜けする場合がほとんどだ。一般的に外国人が最初に使うべき英英辞典はこの学習英英辞典だ。インターネット上に様々な英英辞典が無料で公開されている現在、不慣れな学習者がいきなりネイティブ・スピーカー向け英英辞典を使いショックや拒否反応を起こすことがないよう、指導、配慮がなされるべきである。

\*Oxford University Pressの多くの学習英英辞典の定義にはThe Oxford 3000™(オックスフォード基本3000語)が使われている。これらは、幅広い分野において高頻度で使われていること、ある意味を表すために代わる語がないこと、という二つの基準で選定された。学習者が最初にマスターすべき基本語だ。辞書では見出し語の前に鍵マークが付けられて、特に手厚く扱われている。

### 学習英英辞典と英和辞典

下の文を「職場における年齢の問題は、政治的、ビジネス上の議題を急速に増大させている」と誤って解釈した学生がいた：

The issue of age in the workplace is rapidly moving up the political and business agenda.

(Paton, Nic. "Age-old problem for baby-boomers". *The Guardian*. 2002年7月6日:  
<http://www.theguardian.com/money/2002/jul/06/workandcareers.jobsandmoney>,  
 Guardian News and Media Limited. 引用許可取得済)

なぜこのような解釈になってしまったのか。Agenda(「議題」)を「問題」の意味でとらえてしまったがために、move upを「増大させる」と誤訳してしまったのだろう。Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE Online)はagendaを以下のように定義している：

a list of problems or subjects that a government, organization etc is planning to deal with  
 (LDOCE Online: <http://www.ldoceonline.com/dictionary/agenda>,  
 Pearson Educations Limited. 引用許可取得済)

Agendaは「議題・課題のリスト」なのだ。そうとらえられると、move upは「(リストの)上の方に移動する」、つまり「(初めに扱われるべき)重要課題になる」と解釈できる。上記の学生は英語の意味の本質をとらえられておらず、日本語のレベルでつじつま合わせをした挙げ句、失敗してしまっている。

一言語辞書と二言語辞書の最も大きな違いは、見出し語に対し前者は「定義」を、後者は「訳語」を与えている点だ。英和辞典でdogを引くと、「犬」と出ているはずだ。「これでいいではないか!」という声が聞こえてきそう。実際、動植物(名)など事物の「意味」を確認する分には大きな問題はないかもしれない。しかし、他の多くの場合、成り立ち、体系の全く異なる英語と日本語の間には一対一の対応関係はなく、意味のギャップが存在する。上で見た通り、「議題」はagendaの意味のある側面を表す「近似値」に過ぎない。英和辞典はこの意味のズレの問題に対処するために、複数の訳語を挙げ見出し語の意味範囲を投影しようとしていたり、注意書きを付け訳語の意味を限定している場合がある(小島1984:48-49)。ウォーフ曰く「We dissect nature along lines laid down by our native language」。中の上以上のレベルの学習者にとっては、日本語による線

引きから離れ、使用者自身が英英辞典の定義、用例を手がかりに、各自の文脈を吟味し、英語のしきたりで世界を区切り解釈してみることも大切になってくるだろう。英語の定義を読むことにより英語に触れる量が増すばかりでなく、英語のシステムの中で英語を学ぶこともできる。とは言うものの、日本人である以上、日本語で手取り早く意味の確認ができることは便利だし安心だ。理解や記憶のため日本語の訳語を押さえておくことは重要でもある。和英辞典は受信のための二言語辞典の中では世界のトップクラスにあり、様々な工夫、配慮がなされている。専門用語などは英英で引いてもピンとこないが、英語で行われる授業の予習には英英の方が適しているだろう。使用者のレベルや好み、目的や状況により、英和と英英を使い分けることが肝心だ。

### 3.4 発信のための英語辞書

今度は日本人が、書く、話すといった発信目的で使用可能な和英辞典、シソーラスと類義語辞典、コロケーション辞典を簡単に見てみる。

#### 和英辞典

日本人が英語で発信する際日本語で考えることが多い訳だが、日本語の語句に相当する英語表現をピンポイントで教えてくれるのが和英辞典だ。我々の日本語の使い方や語感は決して画一ではないし、日本人が英語で書いたり、話したりする場面やコンテキストは千差万別なので、その活動を万遍なくサポートする辞書を作成することは至難の業だ。しかし、和英辞典編纂は1980年代半ばに飛躍的な進歩を遂げ、以降、実用的な辞典が出版されてきている。

#### シソーラスと類義語辞典

類義語辞典は二種類に分けられる。類義語を羅列しただけのもの(シソーラス)と、類義語間の意味の違いを説明したものだ。類義語の存在を気づかせてくれるシソーラスは、その意味・用法がわかっているネイティブ・スピーカーには便利である。一般的には、外国人学習者の発信、語彙増強のためには意味の説明のついた類義語辞典の方が有用である。しかし、携帯型の電子辞書に収められている場合は、ジャンプ機能により一緒に搭載されている和英辞典や学習英英辞典で難解な語句を容易に調べることができる。テクノロジーのお陰で、ネイティブ・スピーカー向けシソーラスが外国人学習者にもかなり使えるものとなった。外国人学習者には、ネイティブ・スピーカーの学習者(子供、生徒)向けの類義語辞典も参考になる。

#### コロケーション辞典

コロケーションとは、語と語の相性という意味だ。日本語で「将棋を指す」、「碁を打つ」と言うが、この名詞と動詞の組み合わせを入れ替えることはできない。このような語と語の親密な関係をコロケーションと言い、これに関する情報を与えてくれるのがコロケーション辞典だ。日本語では「濃い／薄いコーヒー」と言うが、英語ではstrong/weak coffeeと言い、日本語から直訳的にthick/thin coffeeとは言えない。コロケーションのレベルにおいても、英語と日本語との間に一対一の関係はないと言える。コロケーションの知識は、英語を正確に、流暢に、そして豊かに発信するために不可欠な知識である。

コロケーションは「基語+連結語」からなる。以下のようなコロケーションがあるが、太字で示されている「基語から引く」のがコロケーション検索の原則である：

形容詞 + 名詞	: strong coffee
動詞 + 名詞	: consult a dictionary
前置詞 + 名詞	: in a handout
動詞 + 副詞	: <b>drink</b> heavily
副詞 + 形容詞	: deeply <b>grateful</b>

## 4. 学習英英辞典の選定のポイント

学習英英辞典に限っても複数の出版社から様々な辞書が出版されている。迷ってしまうが、基本的に目的、レベル、好みに合った辞書を選べばよい。大きさや、帯やケースの日本語の宣伝文句も参考になり、全体を見渡すことができるので、紙の辞書を実際に手に取って選定するのがよいだろう。学習辞典は収録語数が多いほどよいとは限らない。商品でもある辞書は作成に予算があり、おのずと総ページ数が決まってくる。収録語彙

を多くすることは、用例や注記など他の有用な情報の削減を意味するからだ。実際に、基本語（機能語と内容語）、専門用語、新語など、複数のカテゴリーの同一の語句で使い引き比べてみるとよい。定義、用例を理解でき、求めている情報を探しやすいか。語法欄や付録にも目を通してみるとよい。また、各出版社のホームページやカタログを参照してみることも有用だ。どのようなレベル（TOEIC®、CEFRなどの目安）、目的で使われる辞書が入手できるかが一覧で示されている場合もある。一般的に、「ポケット版」はサイズこそ小さいが、上級学習者向けなので要注意である。

ウェブ辞書に関しては、発音してくれるか、ジャンプ機能があるか、成句検索やワイルドカード・サーチができるか、検索速度、広告が邪魔にならないかということもチェック・ポイントになるだろう。以下に無料で使える学習英英辞典サイトを簡単なコメントをつけて示す：

**Cambridge Dictionaries Online:** <http://dictionary.cambridge.org>

- ・「ガイドワード」（意味の小見出し）ごとに項目が立てられているユニークな構成
- ・初級、中級、上級の学習英英辞典、二言語辞書を提供

**Collins Dictionary:** <http://www.collinsdictionary.com>

- ・COBUILDは、異なる品詞も一つの見出し語の下に収録し、語義を頻度順に配列
- ・文定義を全面的に採用

**Longman Dictionary of Contemporary English Online:** <http://www.ldoceonline.com/>

- ・見出し語の使用頻度を書き言葉、話し言葉ごとに3段階で表示
- ・語義検索を助ける「サインポスト」（意味の小見出し）を採用

**Macmillan English Dictionary Online:** [http://online.macmillandictionary.com/mc\\_au2/macmil.htm](http://online.macmillandictionary.com/mc_au2/macmil.htm)

- ・語義選択を助ける「メニュー」を採用
- ・見やすい、シンプルな構成

**Merriam-Webster's Learner's Dictionary:** <http://www.learnersdictionary.com/>

- ・アメリカの学習英英辞典
- ・用例が豊富で、言い換えの情報も提示

**Oxford Learner's Dictionary Online:** <http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/>

- ・学術分野で高頻度で使われる「アカデミック・ワード」を表示
- ・語義検索を助ける「ショートカット」（意味の小見出し）を採用

## 5. 学習英英辞典の活用のポイント

### 5.1 辞書検索プロセスの7段階

辞書検索のメカニズムを、受信型と発信型に分けて考えてみよう。辞書を引くという行為は、前述の通り、複雑で高度な知的活動であるが、Hartmann (2001: 89-92) は次の7つのステップに分けている：

- ① 問題の認識
- ② 問題となる語の特定
- ③ 辞書の選択
- ④ 見出し語の選択
- ⑤ 語義の選択
- ⑥ 有用な情報の抽出
- ⑦ 情報の活用

辞書が適切に使えた時は、無意識の内にもこれら全てのステップをクリアーしているはずだ。このモデルは紙媒体の辞書の検索を抽象化したもので、受信・発信の双方向の検索が対象となっている。まずは、このハートマン・モデルに基づき、受信のための学習英英辞典の使用を考えてみる。

## 5.2 受信のための辞書検索

### ① 問題の認識

まずは問題を認識し、ある語句を辞書で引くか、引かないかを決定しなければならない。この「入り口」の部分で正しい判断がなされないと辞書は引かれず、不正確な解釈のまま読解を進めてしまうことにもなるので、極めて重要なステップだ。ある語句を引くか（引かないか）、引けるか（引けないか）は多分に使用者の英語力（語彙力、読解力）、そして辞書を引くセンスによる。正しく辞書が引けるためには、英語力を高め、辞書を取りあえず何度も引いてみるにより、感覚を磨いていくことが肝心だ。

### ② 問題となる語の特定

これは辞書で確認すべき問題となる語句は何かを決定することだ。単語なのか、複合名詞なのか、句動詞なのか、イディオムなのか等を見極められることも重要だ。

### ③ 辞書の選択

適切な辞書が選択できるためには、どのような辞書が存在し（使える状態で身の回りにあり）、どのような目的で使えるかを把握している必要がある。専門用語は大型の英和辞典で、基本語を引き直す場合は学習英英辞典という具合に、検索対象、目的に応じて使い分けことが有益だ。お気に入りの辞書をひたすら使うことも悪くはないだろう。しかし、現在はインターネット上に無料で多数の辞書が公開されており、同じジャンルの複数の辞書にも容易に手が届くようになった。使える辞書のレパートリーを増やしておく、多様な状況に対応できる。辞書の種類と特徴を把握し、状況に応じて使い分けたい。

### ④ 見出し語の選択

これは、必要な情報がどの見出し語の下に収録されているかを判断することだ。学習英英辞典では、品詞ごとに見出し語が立てられている場合が多いので、文法の知識が必須だ。普通、名詞は単数形に、動詞、形容詞は原型に戻して引く。イディオムの提示の方針は辞書により異なるが、最初の重要語の項目に収録されている場合が多い。また、ある語（形）や複合語が見出し語として与えられているか、語義の一つとして与えられているかも辞書により異なる場合があるので要注意である。

### ⑤ 語義の選択

見出し語までたどり着いたら、多義語の場合は、複数の語義の中から読解の文脈に合う意味を選択しなければならない。各語義は番号が付けられ、コーパスに準拠している学習英英辞典ではほぼ頻度順に（高頻度な意味から）配列されている。学習英英辞典において使用者が適切な意味を選択するためには、大量の英語の定義や用例を読み進めなければならないという大きな困難が伴った。この使用者の負担を軽減するために、「ショートカット」が多義語の語義に付くようになった。ショートカットは同義語、関連語、選択制限、コンテキスト、定義の一部などからなる小見出しで、その語義が何に関するものかを端的に示し、使用者の語義の特定や絞り込みを助ける。Macmillan English Dictionary (MED) では、「メニュー」（いわばショートカットの一覧）を多義項目の冒頭に掲げている。

受信目的の検索 (FORM → MEANING) においては、「意味」がわからずに辞書を引いている訳だから、「形」を手がかりに検索や絞り込みを行うべきである。学習英英辞典においては、以下のような有用な情報が明示的に与えられているので、状況に応じて語義選定に有効に活かすべきだ：名詞の可算・不可算 ([C]・[U])、形容詞の限定用法・叙述用法、自動詞・他動詞 ([I]・[T])、選択制限、文法的・語彙的パターン。

### ⑥ 有用な情報の抽出

語義が特定できたら、その項目から所期の問題解決に必要な情報を取り出さなければならない。英和辞典の場合と異なり、学習英英辞典の検索においては英語で示されている情報を解釈するという段階が加わる。特に定義は注意が必要だ。定義語彙、定義文が採用され、わかりやすさへの配慮がなされているが、抽象的であり、限られたスペースにできるだけ有用な情報を提示するために独特な言い回しが使われていたり、複雑な構造を取る場合があるからである。それでは、定義の解釈に役立つ基本的な事項を見てみよう。



If you **happen** to do something, you do it by chance. If it **happens** that something is the case, it occurs by chance.

(CollinsDictionary.com: <http://www.collinsdictionary.com/dictionary/english-cobuild-learners/happen>, HarperCollins Publishers. 引用許可取得済)

### Someone ... they

かつては someone や everyone を指すために男性単数の代名詞、he、his、him が用いられていたが、PC (political correctness) の観点からユニセックスな they が使われるようになっていく。学習英英辞典の文定義においては、この語法がいち早く導入された (p.7 の familiar の文定義参照)。

### sbとsth

文法パターンの表示にも使われるが、それぞれ somebody と something の略で、「人」と「もの」を示す。上級者には自明のことでも、初心者にはこのようなささいなことでも検索の障害になりかねないので、早い段階で適切に指導することが必要である。

定義と用例の解釈に関しては、「6.4 総合的なアクティビティ」の **obsession** の項目の訳例 (p.12) を参照のこと。

### ⑦ 情報の活用

辞書検索は、決して通り一遍のリニアなプロセスではない。一回でスムーズにゴールインできるに越したことはないが、行ったり来たり、立ち止まったり、時には軌道修正を余儀なくされることもあるだろう。ステップ⑦「情報の活用」は、辞書から得られた情報を、手元の文脈に還元し、所期の問題解決に応用するという検索の最後を締めくくる重要な作業だ。直前のステップ⑥「有用な情報の抽出」とは不可分の、行きつ戻りつのプロセスになることもあるだろう。これまでの努力が水泡に帰すことがないように慎重に遂行しなければならない。

### 5.3 発信のための辞書検索

次に発信のための辞書検索について考える。辞書が直接解決を示してくれるのは、基本的にセンテンス内またはセンテンス間の問題に限定される。ここでは前者に関連し、英語での発信の際に重要となるコロケーションの検索について扱う。

#### コロケーション検索 一二つのアプローチ

「電車はスピードを増した」と言いたいとする。空欄に入る「増した」に当たる動詞が何かわからない場合、どのような辞書を使い、何を調べればよいか：

The train ( ) speed.

コロケーションの検索では、paradigmatic relation と syntagmatic relation に頼る二つのアプローチが可能だ。Paradigmatic なアプローチは、類義語など代入可能な表現から探す方法だ。例えば、和英辞典で「増す」を引く、英英の類義語辞典で increase を引いてみるという方法が該当する。Syntagmatic なアプローチは、文法やコロケーションを基に一緒に使われる語から探す方法だ。例えば、コロケーション辞典で speed を検索し共起する動詞を調べる、英和辞典、学習英英辞典で speed の項目に挙げられている用例を見て一緒に使われる動詞をチェックするという方法がある。これらのアプローチを通して、gain speed などの表現に行き着くことができるだろう。また、電子化の進んだ現在、携帯型電子辞書で、train と speed をキーワードに、また「スピード」と「増す」をキーワードに例文検索を行うことも可能だ。

発信のため辞書使用は複雑で、英和辞典や学習英英辞典で文法や語法を確認するといった作業も必要になるかもしれない。発信の目的や状況が多岐にわたることを考えると、個々の発信のための英語辞書の情報量は必ずしも十分ではない。意図している意味をできるだけ忠実に伝えるために、各辞書を最大限に活用し、状況に応じて適切に使分け、また組み合わせ使用していくことが重要であろう。

## 6. アクティビティーのアイデア

最後に、日本人が学習英英辞典を使うことを念頭に、授業での具体的な活動例を提案する。「導入」、「受信のためのアクティビティー」、「発信のためのアクティビティー」、その他「総合的なアクティビティー」に分けて扱う。

### 6.1 導入

学習者にとって、全てが英語で書かれている辞書は、最初は難しく、敷居が高く感じられる。まずは（紙の辞書で）その厳しい辞書にもこんな一面がある、こんなにも使えるということを示し、学習者の“恐怖心”を取り除き、親しみを持たせることから始めたい。「知っていることを引く」ということが一つの重要なコンセプトだ。

#### ・挿絵を見る

学習英英辞典には何百もの挿絵や写真が盛り込まれ、説明効果を高めている。タコの「足」、「吸盤」を英語で何というか。**octopus**の挿絵(OALD8の下図参照)が教えてくれる。このように全体に対する部分を取っていたり、関連したものをまとめた挿絵もある。挿絵が文化やステレオタイプの違いに気づかせてくれる場合もある(例：同辞書**shutters**の挿絵)。



octopus



shutters

#### ・日本関連の英語を引いてみる

学習英英辞典のCD-ROM版のAdvanced SearchでJapanまたはJapaneseをキーワードに検索すると、日本語起源、日本に関連する見出し語(英語)をリストアップしてくれる(英語に入った日本語にどのようなものがあるか、最初に学生に聞いてみるもよい)。日本の事物が英語の定義でどのように描かれているかを見ることにより、英語の定義に親しむ。英語の定義を見せ、クイズ形式で見出し語を当てさせてもよい。(SayingをキーワードにCD-ROM辞書を検索すると、「諺」に関しても同様の活動ができる。)

#### ・カタカナ語を引いてみる

カタカナ語(日本語)とオリジナルの英語との意味の違いの記述は和英辞典の領域だが、英語側から日本語との意味のずれを確認してみることは、学習英英辞典の導入の活動として面白いだろう。学習英英辞典においては、原則として語義は頻度順に配列されている(この原則も教える)。つまり、ネイティブ・スピーカーが最もよく使う意味が最初に示されている訳だが、それとカタカナ語の意味とを比べてみると違いが浮き彫りになる。例えば、以下のような語を引いてみよう：

businesslike, businessman, challenge (動詞)、claim, mannerism, sense, smart

#### ・英語の定義と日本語の訳語を比べる

一般に言われている通り、知っている語句を英英辞典で引き直すことは、意味の確認のため、また辞書に慣れるために有効である。特に導入の段階においては、「日本語と英語の間には意味のギャップが存在し、学習英英辞典はそれを教えてくれる便利なツールだ」と実感させるような、インパクトのある体験をさせたい。以下のような語句を引かせて、インプットされている日本語訳との意味の違いに目を向けさせてみよう：

not bad : 「悪くない」(英語は日本語よりポジティブな意味を持つ)  
 climb : 「登る」(英語は下や横への動きも表す)  
 international : 「国際的」(英語は「二国間」でもよい)  
 willing : 「喜んで…する」(この訳が当たらない、消極的な場合もある)

## ・語法欄を読む

定義が特殊な言語で書かれている場合があるのに対し、語法欄は、専門用語を含むものもあるが、普通の英語で書かれているためハードルは低い。学習英英辞典には、類義語、語法、文法、英米差などに関する、数百の有用な語法欄が散りばめられている。授業との関連で取り上げることはもちろん、辞書に親しみ、知識を増やすために拾い読みや通読をしてみるとよい。

## 6.2 受信のためのアクティビティー

いくらお勧めだからと言って、いきなり学習英英辞典を学習者に与え、さあ引いてみなさいと言っても無理がある。学習者が最初から独力でハートマン・モデルの①から⑦までのステップをこなすことはかなり難しい。そこで提案したいのが、検索プロセスをコントロールするということだ。つまり、「易」から「難」へ、「単純」から「複雑」へと段階を踏んで、アクティビティーを設定し、できるだけ無理なく学習英英辞典を導入する方法だ。受信目的のための学習英英辞典の使い方を教えるのであれば、まずは個々の検索ステップごとに扱い、徐々に複数のステップの連続へと導くということだ。以下、ハートマン・モデルの検索ステップのいくつかに関し、具体的なアクティビティーの例を提案する。

### <①「問題の認識」に関連するアクティビティー>

【課題】以下の文章で辞書を引きたい語句に下線を引こう。

But what if your dishwasher stops working? Or your computer crashes? Should you pay someone to repair it, or should you buy a new one? It's often hard to know what makes the most financial and environmental sense. Here are some rules of thumb to help you decide whether you should repair or replace a broken item.

(Hutchinson, Tom and Kristin Sherman. 2013. *Network: Student Book 4*. Oxford University Press. p.73)

【解説】問題は一つの未知語であるとは限らない。周辺の語義で使われている基本語が見落とされる場合がある。また、ステップ②の領域に入るが、成句やイディオム(上の make sense, rule of thumb)の見極めも必要だ。個々の単語の意味を足し合わせても意味がしっくりこない場合は、成句ではないかと疑い検索できる感覚が大切だ。

### <④「見出し語の選択」に関連するアクティビティー>

【課題】下線部を調べるためには、どの見出し語を見ればよいか。

1) A recent study by the Consumer Electronics Association reports another interesting development. It states that almost a third of the new and more innovative electronics are sold to women.

(Sarosy, Peg and Kathy Sherak. 2013. *Lecture Ready 2*. Oxford University Press. p.3)

2) Either way, workers of all ages, but particularly those in their 30s and 40s, are suddenly waking up to the fact they may have to work well beyond the traditional 65 if they want a comfortable retirement.

(Paton, Nic. "Age-old problem for baby-boomers". *The Guardian*. 2002年7月6日:  
<http://www.theguardian.com/money/2002/jul/06/workandcareers.jobsandmoney>,  
Guardian News and Media Limited. 引用許可取得済)

【解説】学習英英辞典は、一つの見出し語に複数の品詞がある場合、品詞ごとに別見出しを立てるのが普通だ。故に複数の品詞のある語を検索する場合は、文法の知識を使い、品詞を特定しなければならない。また、見出し語か語義かという問題も存在する。下線部の states は「述べる」という意味の動詞、well は「優に」という意味の副詞だ。

### <⑤「語義の選択」に関連するアクティビティー>

【課題】下線部の意味を調べるためには、どの語義を見ればよいか。

1) Well, companies are obliged to provide a link for you to unsubscribe from mailing lists. But

the huge numbers of unsolicited emails will carry on growing and might one day saturate the internet completely.

(Chapman, Rebecca. 2007. *Express Series: English for Email*. Oxford University Press. p.60)

2) I quite like when a presentation ends on a bit of a high note.

(Hughes, John & Mallet, Andrew. 2012. *Successful Presentations*. Oxford University Press. Unit 6.)

【解説】意味を調べるために辞書を検索する場合は、(まずは)「形」を基に語義を特定するのが原則だ。1) の carry on は強調表示されているパターンまたは用例を手がかりに、後に動詞の-ing形が続くものを探し語義を特定する。2) の note は、on a ... note のかたまりで、1) と同じ方法で引く。

語義の選択の練習は、語義の少ない項目から(超)多義項目へ、手がかりのわかりやすい語からわかりにくい語の検索へとプログラムすべきだ。

### <②「情報の活用」に関連するアクティビティー>

【活動】ある語の定義を吟味し、各用例の見出し語の部分の適切な日本語訳を考える。

【ヒント】ステップ⑥と⑦が行きつ戻りつの不可分なシークエンスでありえることは上で述べた通りだが、これを手軽に練習する方法である。各自導き出した見出し語の日本語訳をペアまたはグループで比べ、なぜそのような訳になったか議論させると、定義の解釈や日本語感に違いがあることに気づき興味深く、理解が深まる。必ず辞書に基づき根拠を述べさせること。

個々のステップの次は、複数のステップの連続を練習してみる。例えば、最後の活動において、CD-ROM版に収録されている追加の用例(OALD8ではEXAMPLE BANK)を使い、例文中の見出し語がそれぞれどの語義に該当するか考えさせることから始めると、ステップ⑤から⑦のシークエンスの練習になる。

## 6.3 発信のためのアクティビティー

【活動】身近なものを英語で定義させる。

【ヒント】定義させるものは特徴のある有形の名詞がよい。「定義の基本」(p.7)の「種を表す言葉+特徴」のパターンを使う。定義を書くのが難しい場合は、種を表す言葉のみを答えさせてもよい。個人の定義ができたらペアまたはグループで検討し、よりよい定義を作らせる。その結果を(学習)英英辞典の定義と比べさせる。複数の辞書の定義を参照し、定義を改訂し、グループごとに発表させる。さらに、できた定義を応用し、同じ範疇の名詞を定義させる(例: butterflyからmoth, dragonflyへ)。

CD-ROM辞書のAdvanced Searchを使うと、定義にinsectが使われている見出し語を特定できる。Abdomen, bite, stingなど、「虫」を定義するのに使えそうな関連語も検索の網に引っ掛かる。

【課題】「ライバルの弱点を突く」を英語でどう言うか。

【解説】「ライバル」はrivalでよいとすると、後は「弱点+突く」のコロケーションの問題になる。その検索には、paradigmatic relation と syntagmatic relation に基づく二つのアプローチがあった(p.8)。それぞれを行うと、take advantage of [exploit] sb's weakness [weak point] のような表現が得られるだろう。

## 6.4 総合的なアクティビティー

### ・引き比べのすすめ

授業での統一された辞書指導には全員が同じ辞書を持っていることが理想的だが、これは紙の辞書の時代には容易ではなかった。しかし、インターネットに接続できれば複数の学習英英辞典に無料でアクセスできる現在、授業で辞書指導を行う環境が整った。辞書ごとに特徴、使い方を説明し、実際に学生にウェブ辞書を引かせながら使い方のトレーニングができるようになった。

また、普段行われないであろう同じジャンルの辞書を引き比べるということも現実的に可能になった。「4. 学習英英辞典の選定のポイント」(p.5)で紹介したように、6つの上級学習者向け英英辞典がインターネット上に無料で公開されている。これらは、同じジャンルに属し、対象は同じであっても、構成も内容も異なる個性的な作品だ。ある辞書に載っていない情報(見出し語、語義、パターン)を他の辞書が示してくれる場合がある。切り口の違う定義を読むことにより、深遠な意味の輪郭が見えてくる。また、複数の辞書の用例に触れることで

初めて浮かび上がってくるイメージや事実もある。

これまで授業を通じ、学生に学習英英辞典の有用性を説き、実際に使わせてきた。それは、一人でも多くの学生に学習英英辞典を引くことの醍醐味を味わわせたい、この強力なリソースを英語学習に役立ててもらいたい一心からであった。その使用に関しては、消極的から積極的までの3段階のアドバイスをするようにしている。学生の英語力、考え方や嗜好は異なるので、どこまで行くかは本人次第だ：

- i) 食わず嫌いはいけない（学習英英辞典をある程度引いてみて、自分に合わないと判断した場合は、補助的にのみ使う、使わないという選択肢もありえる。）
- ii) 好きな辞書を見つける（一つでも気に入った学習英英辞典を見つけ、自分に合ったスタイルで使う。二つ以上あればさらによい。）
- iii) 戦略的に使い分ける（究極的には辞書の特徴を知り、目的、状況により優先順位を付け、最善の答えを与えてくれそうな辞書から検索する。）

#### ・ペア、グループワークのすすめ

辞書検索はプライベートな行為だ。（特別な状況を除いて）他人に干渉されることもなければ、他人の引き方を知る由もない。また、語彙力や検索スタイルも違うので、絶対はない。そもそも辞書を引くことは補助的な活動であり、それ自体が目的ではないので、自分がどのように辞書を引いているかなど気にもしないし、憶えてもいない。それ故、これまでも提案したが、辞書指導にペアまたはグループワークを取り入れ、自分の辞書検索（過程）を振り返らせ、他人のそれと比べさせることは大変勉強になり、辞書検索能力を高める上で極めて有効だ。

【課題】複数の（ウェブ）学習英英辞典で下線部を検索し、どのような日本語が当てはまるか考える。その過程で役に立った定義、用例を書き留める。

I believe the primary factor is obsession over customer.

(Jeff Bezos. "To Stay Focused on Our Customer" (July 27, 1998).

[上岡伸雄. 2009. 『名演説で学ぶアメリカの文化と社会』研究社. p.130. 引用許可取得済])

【解説】検索語は指定されているが、ステップ⑤から⑦にわたる検索プロセスの最後の過程を複数の辞書を参照して行う、総合的な問題だ。引き比べることにより、obsessionに程度があることがわかる。この場合は「(顧客) 第一主義」、「こだわり」のようなよい意味で使われている。まずは個人で検索させてから、ペアまたはグループで検討させ、日本語訳とその根拠を発表させる。

辞書情報解釈の確認の意味を込め、比較的複雑な構成を取るMED Onlineのobsessionの定義と用例の訳例を示しておく：

an emotional state in which someone or something is so important to you that you are always thinking about them, in a way that seems extreme to other people

(誰かまたは何かがとても重要で、他人には異常と思われるレベルでそのことばかりを考えてしまう心理状態)

**obsession with:** Jack's obsession with personal cleanliness annoys everyone.

(…への執着：ジャックの潔癖症には皆が閉口している。)

The girls' interest in the star had bordered on obsession (=was almost an obsession).

(その少女のそのスターへの思い入れは狂気に迫った。)

(Macmillan English Dictionary Online © Macmillan 2014: <http://www.macmillandictionary.com>,

Macmillan Publishers Limited. 引用許可取得済)

#### ・最大限に有効活用しよう

辞書の検索がうまくいかない場合、原因は二つある。辞書が悪い場合と引き方が悪い場合だ。検索がうまくいかない場合でも、少し目先を変えたり、工夫を加えることによって、辞書から有用な情報が引き出せることがある。

【課題】空所を埋める「本格」に当たる英語は何か。

本格中華 ( ) Chinese dishes

【解説】Paradigmaticな和英辞典、類義語辞典の検索から、authenticが答えの一つであることがわかる。しかし、syntagmaticなアプローチを使い、dishの連結語をコロケーション辞典で検索しても、なかなか適切な形容詞は得られないだろう。コロケーションとは語と語の相性という意味だが、ある程度以上の親密さがないと辞書には収録されないのだ。つまり「料理」の意味のdishと「本格」を意味する形容詞は、関係が十分に親密ではないということだ。そうであれば、その形容詞と十分に相性のよさそうな「料理」関連の名詞で引き直してみればよいではないか。何を引けばよいか。Oxford Collocations Dictionary for Students of English (第2版、2009)では、正解はcuisine、recipe、tasteにある(やはりauthenticだ)。状況にもよるが、辞書の検索においては簡単に諦めてしまわないことが肝心だ。また、常に満足な情報が得られるとは限らないので、“間に合わせの”に使えることも時には必要だ。辞書を引くセンス、検索技術を磨き、限りある資料を最大限に有効活用したい。

### 参考文献

- Carroll, John B., ed. 1956. *Language, Thought, and Reality: Selected Writings of Benjamin Lee Whorf*. Cambridge, Mass.: Technology Press of Massachusetts Institute of Technology.
- Carter, Ron. 1998. *Vocabulary: Applied Linguistic Perspectives*. 2nd ed. London: Routledge.
- Hartmann, R. R. K. 2001. *Teaching and Researching Lexicography*. Harlow: Pearson Education.
- Hartmann, R. R. K., and Gregory James. 1998. *Dictionary of Lexicography*. London: Routledge. (竹林滋他訳. 2003. 『辞書学辞典』研究社.)
- 小池生夫他編. 2003. 『応用言語学辞典』研究社.
- 小島義郎. 1984. 『英語辞書学入門』三省堂.
- McArthur, Tom, ed. 1992. *The Oxford Companion to the English Language*. Oxford: Oxford University Press.
- Yamada, Shigeru. 2001. “The Abilities Needed for EFL Dictionary Use and How to Teach Them.” *Studies in Lexicography*. Vol. 11. Seoul: Center for Linguistic Informatics Development, Yonsei University. 113-125.
- 山田 茂. 2013. 『『オックスフォードワードパワー英英辞典(第4版)』活用ガイド』旺文社.  
<http://www.obunsha.co.jp/service/wp4/pdf/wp.pdf>

### 著者プロフィール

山田 茂(やまだ しげる)

早稲田大学教授。JACET 英語辞書研究会代表、日本英語表現学会副会長、日本実用英語学会理事、アジア辞書学会理事。英語学・辞書学専攻。英和・和英辞典の編集、執筆にも携わる。

主な業績：

“Monolingual Learners’ Dictionaries - where now?” (2013, *Bloomsbury Companion to Lexicography*, Ch. 4.5)、『新英和大辞典』(第6版、2002、研究社)、『ルミナス和英辞典』(第2版、2005、研究社)

### 学習英英辞典活用の手引き

2014年9月1日発行

著者 山田 茂

発行所 オックスフォード大学出版局株式会社

〒108-8386 東京都港区芝 4-17-5 相鉄田町ビル 3F

© Oxford University Press

※本手引きを許可なく複製・転載することを禁止します。

※本手引きに掲載の内容やURLは、本手引き発行時の情報で、予告なく変更されることがあります。

## Oxford Teachers' Club

---

先生方を対象とした無料会員制サービスOxford Teachers' Clubでは、英語指導にお役立ていただける参考資料や有用な情報を豊富にご提供しています。同クラブのウェブサイトをぜひご活用ください。ご登録およびサービスのご利用は以下のURLから。

<https://elt.oup.com/teachersclub/>

## Oxford Learner's Dictionary

---

オックスフォードの学習英英辞典のラインアップは、以下のURLからご覧いただけます。

[www.oupjapan.co.jp/teachers/dictionaries](http://www.oupjapan.co.jp/teachers/dictionaries)

**OXFORD**  
UNIVERSITY PRESS

オックスフォード大学出版局株式会社  
〒108-8386 東京都港区芝4-17-5 相鉄田町ビル3階  
Tel:03-5444-5454 Email:elt.japan@oup.com  
[www.oupjapan.co.jp](http://www.oupjapan.co.jp)

(2014年9月) JP001134